

増加中

## マダニによる感染症に注意しましょう！

県内では、マダニが媒介する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の報告数が急増しています。令和3年（2021年）は、過去最高の9件（うち1件死亡）発生しており、今年は2件の死亡例が報告されています。

SFTSは、マダニに刺されてから6～14日後に発熱等のインフルエンザに似た症状が現れますが、有効な治療薬はなく、重症化し死亡する場合もあるため、注意が必要です。

マダニが媒介する感染症には「日本紅斑熱」もあります。草むらや藪に入る際は、マダニに咬まれないよう十分な対策を行ってください。

## ① マダニの生息場所



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



## ② マダニから身を守る服装

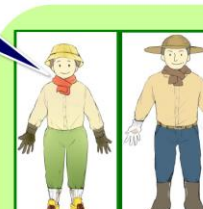
野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてください。



半スボンやサンダル履きは不適当です！



シャツの裾はズボンの中に入れてください。

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてください。

## ③ マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

## ④ 忌避剤の効果

## マダニに対する忌避剤（虫よけ剤）

が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。

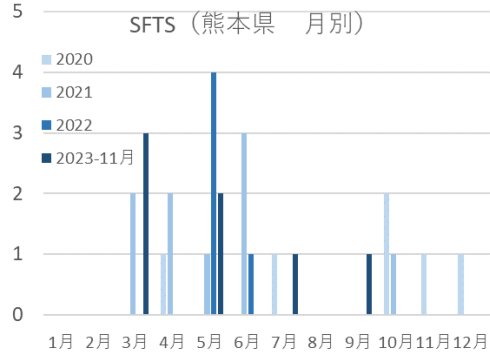
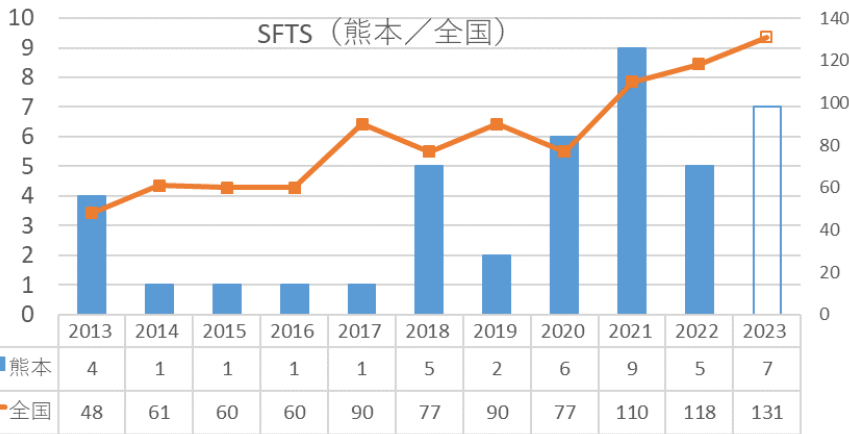
忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。



# (参考) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) について

- ・マダニに咬まれてから、6～14日後に、発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛などインフルエンザに似た症状が現れます。嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状も多くみられ、重症化すると、出血しやすくなります。
- ・現時点では、ワクチンや有効な治療薬はなく、対症療法が中心となります。重症化し、死亡する場合があります。

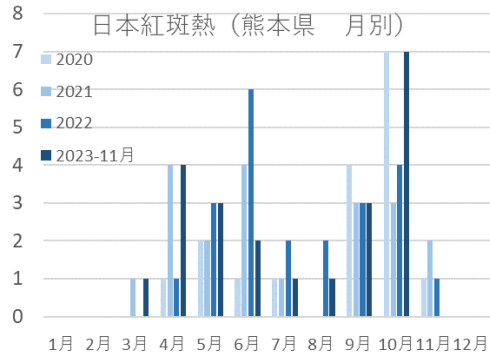
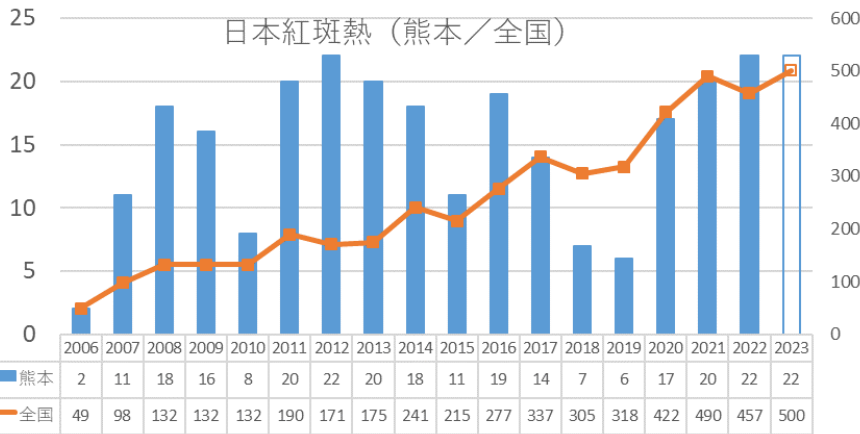
## 【県内の発生状況】 ※2023.11月末時点



# (参考) 日本紅斑熱について

- ・マダニに咬まれてから、2～8日後に、頭痛、発熱（38℃以上）、倦怠感などが現れます。また、腕や脚を中心に、かゆみのない紅色の皮疹が見られます。注意深く探すと、“かさぶた”に覆われたマダニの刺し口が見つかることもあります。
- ・有効な治療薬がありますが、治療開始が遅れると、重症化し、死亡する場合があります。

## 【県内の発生状況】 ※2023.11月末時点



### ダニに咬まれたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの抜去、洗浄など）をしてもらいましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

### 受診時に医師に伝えること

- ① 野外活動の日付
- ② 場所
- ③ 発症前の行動

